



日薬連

製薬業界の地球温暖化対策 カーボンニュートラル行動計画目標・実績

- ＜対象範囲＞ カーボンニュートラル行動計画フェーズⅠ・フェーズⅡ 目標
参加企業のうちアンケート回答企業
- ＜対象期間＞ 2023年度
- ＜対象項目＞ カーボンニュートラル行動計画

製薬業界におけるカーボンニュートラル行動計画



● 数値目標

- 日薬連フェーズⅠ目標：2020年度CO₂排出量を2005年度比23%削減(研究所・工場)
- 日薬連フェーズⅡ目標：2030年度CO₂排出量を2013年度比46%削減（研究所・工場・オフィス・営業車両）
（傾き2.7%/年：WB2°C水準）
- 長期ビジョン：2050年CO₂排出量ネットゼロ

● 参加企業概要（2023年度）

	カーボンニュートラル行動計画 フォローアップ対象企業	日薬連傘下企業
業態別団体数	9団体	15団体
企業数	98社 ¹⁾ (31.3%)	313社
売上高	96,329億円 (49.9%) ²⁾	194,353億円 ³⁾

1) エネルギーデータの集計対象は、カーボンニュートラル行動計画フェーズⅠ・フェーズⅡ目標参加企業106社のうち回答を見送った等の8社を除く98社

2) アンケート回答企業の回答より集計

3) 厚生労働省の「令和4年度(2022年度) 医薬品・医療機器産業実態調査（医薬品製造販売業-医薬品売上高規模別企業数及び資本金規模別医薬品売上高の状況）」のデータを引用

● 集計対象事業所数

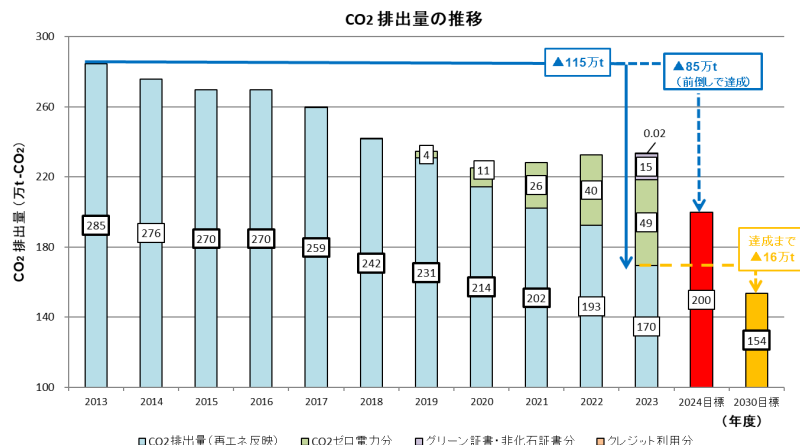
	工場	研究所	合計
集計対象事業所	260	103	363

● エネルギー管理指定工場数（省エネ法）

種類	事業所数	備考
第1種	122	原油換算3,000kL/年以上
第2種	66	原油換算1,500kL/年以上、3,000kL/年未満
無指定	76	原油換算1,500kL/年未満
合計	264	—

CO₂排出量推移

【全体】



2030年度目標：2030年度CO₂排出量を2013年度比46%削減

2023年度実績

2013年度比	▲40.4%
進捗率（目標）	87.9% (58.7%)
2022年度比	▲11.9%

- 進捗状況の把握には、調整後排出係数を使用
- 進捗率目標は年率2.7%削減として算定（進捗率＝（基準年度実績値－当年度実績値）／（基準年度実績値－2030年度目標値）×100）

前年度からは、経済活動量の変化による排出量が1.19万トン減少したものの、経済活動量あたりのエネルギー使用量は6.38万トン増加しました。しかし、再生可能エネルギー等の導入がさらに進展し、27.87万トン削減できたため、最終的にCO₂排出量は22.67万トン減少しました。

その結果、2023年度のCO₂排出量は169.6万 t-CO₂であり、基準年度である2013年度の排出量284.7万t-CO₂に対して**40.4%削減**となりました。また、前年度の排出量192.6万t-CO₂に対して**11.9%削減**となりました。

2030年度目標に対する進捗率は目標は58.7%に対し**87.9%**となりました。

年度	2013（基準年）	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
売上高（億円）	89,617	85,049	87,197	86,846	87,008	87,009	86,671	82,944	92,441	96,964	96,329
CO ₂ 排出量 (万t-CO ₂ , 再エネ反映)	285	276	270	270	259	242	231	214	202	193	170
CO ₂ 原単位(t-CO ₂ /億円)	31.8	32.4	30.9	31.0	29.8	27.80	26.64	25.85	21.88	19.86	17.61
原単位指数	1.000	1.021	0.973	0.977	0.939	0.875	0.839	0.814	0.689	0.625	0.554

基準年度から2023年度までのCO₂排出量の増減要因

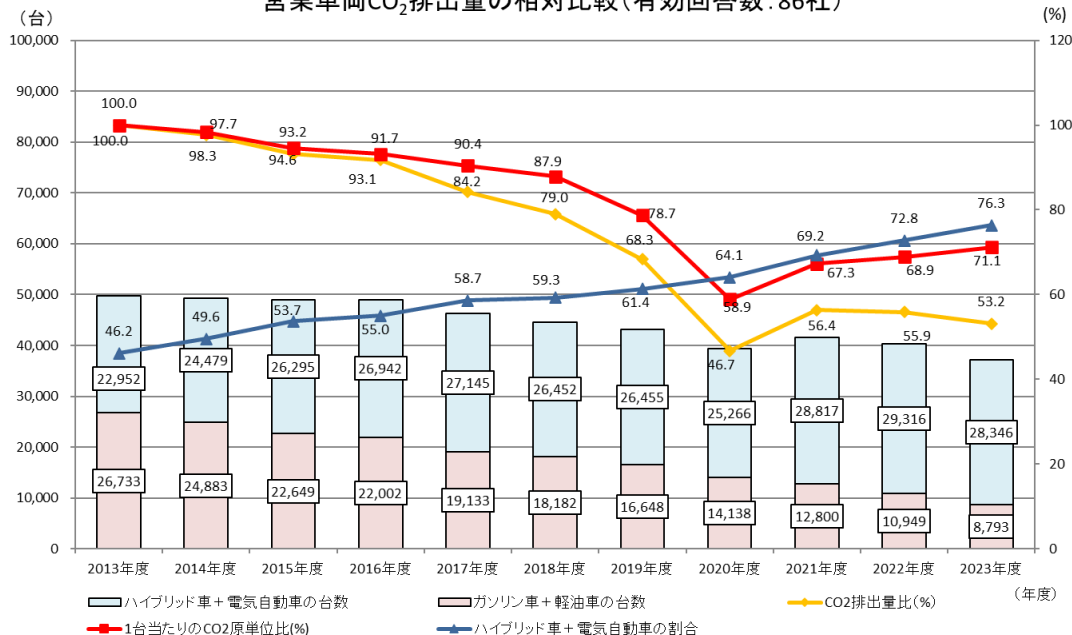


日 薬 連

		CO ₂ 排出量(万 t)	基準年度比 (%)
CO ₂ 排出量	2013年度（基準年度）	284.7	-
	2023年度	169.6	59.6
	増減	▲115.1	▲40.4
増減要因内訳	炭素排出係数（電力）の影響	▲23.3	▲8.2
	炭素排出係数（燃料）の影響	▲1.2	▲0.4
	事業活動拡大の影響	21.3	7.5
	業界の努力（再エネ導入）	▲63.7	▲22.4
	業界の努力（クレジット利用）	▲0.02	▲0.01
	業界の努力（省エネ対策等）	▲48.2	▲16.9

営業車両からのCO₂排出量

営業車両CO₂排出量の相対比較(有効回答数: 86社)



次世代自動車（ハイブリッド車、電気自動車）の導入や営業車両の効率的な利用により、CO₂排出量は着実に低下しています。

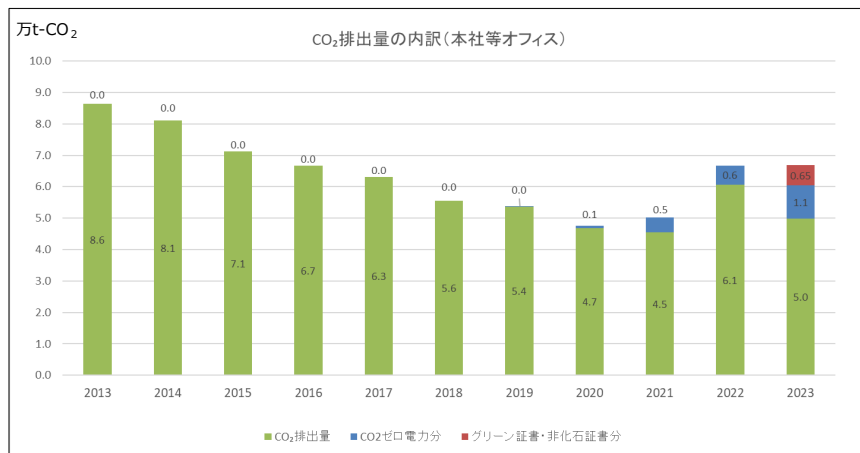
2023年度は営業車全体の台数が減少していますが、電気自動車数は前年の926台から大きく増加し1,410台となりました。

2023年度実績			前年比
営業車両数	(台)	37,139	▲8%
うち次世代自動車数 (除: Cディーゼル)	(台)	28,346	▲3%
ガソリン使用量	(kL)	38,363	▲6%
軽油使用量	(kL)	687	▲14%
CO ₂ 排出量	(万t-CO ₂)	9.08	▲5%
CO ₂ 原単位	(t-CO ₂ /台)	2.4	+3%
次世代自動車の割合	(%)	76.3	+3.5ポイント

オフィスからのCO₂排出量

【本社等オフィスのCO₂排出量】

指標	単位等		本社等オフィスの実績										
			2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
エネルギー消費量	電力購入量	(万kWh)	13,757	13,256	12,062	11,433	11,309	10,588	10,678	9,644	10,564	14,331	14,758
	CO2ゼロ電力購入量	(万kWh)		0	0	0	0	0	24	184	1,124	1,392	2,536
	グリーン電力証書・非化石証書	(万kWh)											1,542
CO2排出量	CO2排出量(再エネ購入・証書・クレジット処理前)	万t-CO2	8.6	8.1	7.1	6.7	6.3	5.6	5.4	4.8	5.0	6.7	6.7
	CO2ゼロ電力分	万t-CO2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.5	0.6	1.1
	グリーン証書・非化石証書分	万t-CO2											0.65
	CO2排出量	万t-CO2	8.6	8.1	7.1	6.7	6.3	5.6	5.4	4.7	4.5	6.1	5.0



本社等オフィス（本社オフィス及び国内オフィス）における2023年度CO₂排出量は6.7万t-CO₂（再エネ証書等処理前）、**5.0万t-CO₂（再エネ証書等反映）**でした。

グリーン電力証書や非化石証書などのCO₂排出量がゼロの電力へ転換する企業は昨年度と同じ15社でしたが、在宅勤務（60社）、LED等の高効率照明機器の導入（66社）、空調温度の設定変更(52社)、社員への教育、啓発（52社）、使用していないエリアの空調停止（45社）、照明機器の間引き(40社)等、様々な対応によりCO₂排出量削減への取り組みが進められています。

主体間連携の強化

製品による削減等を含めた主体間連携（研究開発や原料や資材の購入、他業界の団体・企業、消費者、政府、学术界など、バリューチェーンにおける様々な主体との連携）の状況は以下のとおりです。

	製品・サービス等	当該製品等の特徴、従来品等との差異、 算定根拠、対象とするバリューチェーン	2023年度実績
1	バイオマスプラスチック 容器の導入	・化石由来原料の削減 ・包装資材メーカーとの連携	集計していない
2	効率的な医薬品輸送 の推進	・トラック（ディーゼル、ガソリン）による個社ごとの医薬品輸送から3PL、 共同輸送、モーダルシフト等への移行による物流エネルギーの効率化 ・物流事業者、医薬品代理店、同業企業等を含むバリューチェーン	3PL推進（41社） 共同輸送推進（49社） モーダルシフト推進（29社） 製品荷姿の標準化（34社） 製品の計量・小型化（31社）
3	廃プラスチックのリサイク ル推進	・医薬品包装材料等の廃プラスチックのリサイクル推進による焼却処分量の 削減、ケミカルリサイクルによる新たな石油由来原料の使用量削減 ・廃棄物中間処理業者、自治体等との連携	集計していない
4	営業車への低燃費車 導入	・ガソリン車からハイブリッド車、電気自動車等への切り替えによるCO ₂ 削減 ・自動車会社、リース会社等との連携	（スライド5 参照）

以上